【創刊号】
2014年9月発行

和泉市 消防団だより

■和泉市消防団本部■
和泉市一条院140－2
(代)0725-41-0119
(直)0725-41-6287

平成26年度全国統一防火標語

もういいかい　火を消すまでは　まあだだよ！

団長挨拶

和泉市消防団
団長　山本　成男

「和泉市消防団だより」創刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

私達の和泉市消防団は、「自らの地域は自らが守る」という郷土愛護の精神のもと、昭和二十二年三月に消防団令の公布により結成されました。その後、昭和三十一年九月の和泉市の誕生や、市域の拡大を経ながら現在に至っています。現在の条例定数は三百七十名、一本部と九個分団で構成されています。

さて、私達の記憶に新しいところとして、平成七年の「阪神・淡路大震災」や平成二十三年の「東日本大震災」など甚大な被害を及ぼす大規模な自然災害は、私達住民の安全・安心を脅かしました。

火災はもとより、これらの自然災害や、いつ発生するかわからない様々な災害に対し、地域防災の中核として活動する消防団には、地域住民からは益々大きな期待が寄せられています。

しかしながら、一方で都市化の進展に伴う社会的な就業構造の変化や、地域コミュニティに対する住民意識の価値観の多様化等により、消防団員の後継者の確保が、だんだんとむずかしくなってきているのも事実であります。

そこで今般「和泉市消防団だより」を発刊することにより、消防団員やそのご家族及び防災関係者を始め、広く市民の皆様方と顔の見える関係を築く事で、和泉市消防団の活動内容を知って頂き、一人でも多くの方々に消防団の必要性を理解して頂くと共に、それが消防団員の安定的な確保につながっていければと念願しています。

今後も私達消防団は、複雑多様化する各種災害に対して、常備消防である和泉市消防本部の皆さんと車の両輪のごとく力を合わせて「誰もが安全で安心して暮らせる住み良い町和泉市」を目指して、一生懸命取り組んでまいりたいと存じます。どうか皆様方の温かいご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

和泉市消防団 副団長紹介

小川　嘉男

田所　一義

米田　全宏

萩本　惠隆

消防長挨拶

和泉市消防本部
消防長　竹中　正夫

「和泉市消防団だより」創刊号の発行、誠におめでとうございます。

私は、平成二十六年四月に和泉市消防本部消防長を拝命いたしました。平成二十六年度人事発令によって消防署での勤務となりましたが、消防とは何か不思議なご縁があって配属されたような気持ちを持っています。消防署への配属から、早いもので五か月が過ぎました。私にとって消防勤務は全く初めてではありますが、消防職員さん、消防団員さんをはじめ各種関係団体の方々から「身に余る、心温まるお言葉」を頂戴し、接していただいていますので、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、消防団との関わりで申し上げましたら、着任その日の（四月一日）午後七時から、消防本部三階研修室におきまして、平成二十六年度に消防団に入団されました団員さんへの激励とお祝いの言葉をのべさせていただきましたが、初めてのことでもあったので緊張の度合いは最高レベルまでに達していたと思います。早いもので、甚大な被害を受けた「東日本大震災」から三年六か月が経過し、また、全国各地で、台風などによる自然災害により、安全・安心に対する市民の関心は一段と高まりをみせ、消防行政・危機管理行政に対する期待も大きくなっております。そんな中で、平成二十五年十二月の臨時国会において、地域防災の要の存在である消防団員への処遇の改善を規定した「消防団を中核とした地域防災力の充実・強化に関する法律」＝「消防団支援法」が成立しております。消防本部といたしましては、「自らの地域は自らが守る」という郷土愛に繋がるアイデンティティーを大切に消防活動を行っていただいている消防団に対しまして、自治体消防のパートナーとして、車で言えば両輪として知識と技術の習得に資するように全力でご支援してまいりたいと考えています。また、消防団員の確保につきましても消防団と一緒になって地域の事情等を踏まえ取組んでまいりたいと考えています。　おわりに、今後想定される南海トラフ巨大地震、首都直下型地震等の大規模災害への対応のため、自治体消防は、消防団をはじめとする関係機関・団体とも連携を図りながら、震災等大規模災害の対策を早急に推進するとともにあらゆる事態への対応とその備えが強く求められているようになっています。

和泉市民が安全で安心して暮らせる災害に強いまち、住んで良かった和泉市の実現に向けて、消防団員の皆様と組織を挙げて取り組んでまいる所存でございます。どうかこれから発行される「消防団だより」を楽しみに期待してくださるよう念願し、創刊号発行のご挨拶とさせていただきます。

和泉市消防署イメージキャラクター
消防戦隊ケスンジャー

全身を赤く染めるのはどんな炎にも耐えられるファイヤーコート・左腕にはどんな火災でも一瞬で消し去るスーパージェットノズル・ベルトには小さな助け声にも反応するパラボリックリフレクター・ヘルメットシールドは暗闇や煙の中でも見渡せるファイヤーシールドなど、最新の装備を装着しています。

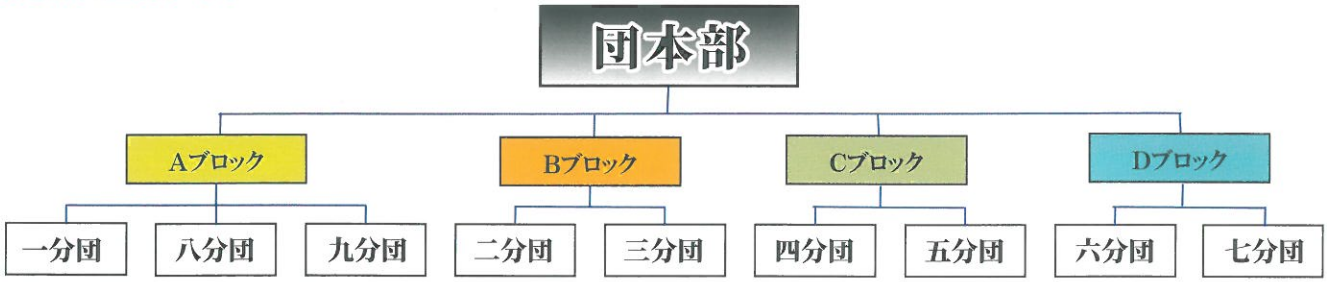
消防団とは

地域住民の有志で構成され、平素は各自の職業に従事しているものの、有事の際には招集されて消防業務に従事するようになっており、市町村における非常勤の特別職地方公務員であります。あくまで奉仕の精神をもって、活動を行う団体で全国に設置されています。

消防団活動

災害発生時の消火活動、現場における警戒活動、また地震や風水害といった大規模災害発生時には、救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導を行い、このほかにも、災害危険のある箇所の把握・水難・行方不明者の捜索など様々な活動を通じて、地域の消防力・防災力の向上に貢献しています。また、各校区・町会行事にも積極的に参加し地域の皆さんと一体となり各種訓練も行っています。

消防団体制



分団管轄区域

Aブロック	**第一分団** 府中町、同一丁目～八丁目・肥子町一丁目、同二丁目・井ノ口町・和気町、同一丁目～四丁目・繁和町・小田町、同一丁目～三丁目・芦部町・一条院町・桑原町・観音寺町・寺門町、同一丁目、同二丁目・今福町、同一丁目、同二丁目・阪本町・伯太町、同一丁目～六丁目・池上町、同一丁目～四丁目・黒鳥町、同一丁目～四丁目・山荘町・東阪本町 **第八分団** 幸一丁目～三丁目 **第九分団** 王子町、同一丁目～三丁目・富秋町、同一丁目～三丁目・葛の葉町、同一丁目～三丁目・尾井町、同一丁目、同二丁目・太町・上町・舞町・小野町・上代町・鶴山台一丁目～四丁目
Bブロック	**第二分団** 弥生町一丁目～四丁目・内田町、同一丁目～四丁目・唐国町、同一丁目～四丁目・箕形町一丁目～六丁目・寺田町、同一丁目～三丁目・緑ヶ丘一丁目～三丁目・いぶき野二丁目、同四丁目、同五丁目・まなび野・あゆみ野一丁目～四丁目 **第三分団** 春木川町・若樫町・久井町・松尾寺町・春木町・テクノステージ一丁目～三丁目
Cブロック	**第四分団** 大野町・父鬼町 **第五分団** 下宮町・仏並町・坪井町・槇尾山町・小野田町・北田中町・岡町・九鬼町・福瀬町・善正町・南面利町
Dブロック	**第六分団** 国分町・黒石町・平井町・納花町・鍛治屋町・三林町・和田町・浦田町・万町・青葉台、同一丁目～三丁目・光明台一丁目～三丁目・のぞみ野一丁目～三丁目・みずき台一丁目、同二丁目・はつが野一丁目～六丁目 **第七分団** 池田下町・伏屋町、同一丁目～五丁目・室堂町・いぶき野一丁目、同三丁目

和泉市消防団事業紹介

事業内容及び開催時期

1）入団式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4月

2）初任団員研修会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4月

3）初級幹部・中級幹部科研修・・・・・・・・・・ 4月

4）初任教育訓練（新団員） ・・・・・・・・・・・・ 5月

5）機関員教育及び無線取扱教養 ・・・・・・ 5月

6）消防団員健康診断 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5月

7）大阪の消防大賞表彰式 ・・・・・・・・・・・・ 7月

8）泉北地区支部総合訓練 ・・・・・・・・・・・・ 8月

9）大阪府消防大会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9月

10）和泉市地域（ブロック別）防災訓練 ・・ 11月

11）特別専科教育（上級幹部科）・・・・・・・・ 11月

12）歳末夜警 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12月

13）和泉市消防出初式 ・・・・・・・・・・・・・・・ 1月

14）交通安全講習会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2月

15）大阪府・和泉市消防表彰式 ・・・・・・・・ 3月

ホース延長の様子。

和泉市消防団が泉北地区支部の代表として出場します。

消火器による初期消火の様子

消防団による一斉放水

※開催時期につきましては年度により変更があります。

和泉市消防団

平成25年度トピックス

第57回大阪府消防操法大会で準優勝

平成25年9月8日の日曜日に大東市にある大阪府立消防学校において、第57回大阪府消防操法大会が開催され、ポンプ車操法の部で、和泉市消防団の第2分団が泉北地区支部の代表として出場しました。

操法訓練大会は、府内7支部より選出された14の消防団が出場し、日ごろの消防団活動で鍛えた技術の正確さやスピードを競い合い、消防団員の団体規律の向上を図るとともに消防技術を練磨し、士気の高揚を図り、もって消防体制を強化することを目的として開催しています。

選手と団員の皆さんは、生業をもちながら、5月15日の連休明けから、毎週3回、夜8時から10時までの2時間、50回以上に及ぶ訓練を重ねて来た結果、見事に準優勝することができました。

多機能型消防車配備

救助活動をサポートする資機材を搭載した多機能型消防車、ボデー部の左右扉はガルウイング式扉、後面はオーバースライダー式シャッターとし、ボデーサイズが許す限りの大きな開口部と収納スペースを確保しました。

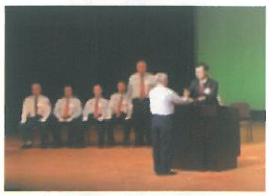
資機材は仕様によって異なりますが、小型動力ポンプやホースをはじめとする消火機材チェーンソーやエンジンカッターのような救助資機材を装備しています。

近年における消防活動では、消火活動はもちろんのこと自然災害における救助活動の要請が多くなり消防車への期待が多様化しています。こうした要請に対応し、小型動力ポンプをはじめ多種多様な資機材の積載が可能な多機能型消防車です。

（和泉市消防署南分署に配置）

消防団120年・自治体消防65周年記念式典

9月29日の日曜日に和泉シティプラザ「弥生の風ホール」において、消防団120年・自治体消防65周年記念式典を市内外から多数のご来賓の出席のもとに開催されました。



第1部では、長年の消防団員の功績と、その家族の内助の功に感謝し、入団40年、30年及び20年以上の団員とご家族に対し、辻市長より感謝状が贈呈され、ご来賓の方々からご祝辞を頂きました。

第2部では、東日本大震災の被災地である岩手県一関市の大森忠雄消防団長を迎えての特別講演を頂き、改めて東日本大震災被災地の惨状に思いをはせました。被災された方々のご冥福と一日も早い復興をお祈りします。

消防団ブロック別紹介

Aブロックの第一分団

執筆者 班長 吉野 健治

第一分団は、総勢二十二名で活動を行っています。

活動内容は、ご存じの通り昼夜を問わず火災現場への消火活動を行います。

平時の際は、毎月の訓練として実践を想定した放水訓練・規律訓練を実施しています。

他の訓練として、災害や事故に備えて心肺蘇生法とAED使用方法を定期的に訓練実習しています。

日頃は、消火栓・防火水槽等の確認や防災意識を高揚するよう周知しています。

今後は、地震・津波災害を想定した訓練や教育を団員だけでなく地域住民の方々と協力して活動を行ってまいります。

和泉市イメージキャラクター

コダイくん

ロマンちゃん

和泉市消防団

消防団ブロック別紹介

Aブロックの第九分団

執筆者 分団長　谷上　敬蔵

第九分団は、十八名の団員で活動を行っています。活動の内容は、火災時の消火活動及び救助・台風による水防活動・歳末夜警時の巡回・放水訓練、救命講習などの活動も行っています。「普通救命講習を修了し救命技能を取得」地域防災では、防災訓練に参加し負傷者の搬送方法「竹を使い簡易タンカの作成」、消火器の使い方「水消火器による実演」、簡易防火水槽を使用しての放水訓練を実施。

以上の活動を行い、市民の生命・財産を守る活動を行っています。（参加者の声）簡易タンカその他、このようなもので、上手く救助ができることを知り、是非覚えておきます。

消防団でも今後も一般家庭にある物で救助活動に使える物を検討していきます。

Bブロックの第三分団

執筆者 副分団長　武　俊雄

第三分団は、五個班・団員数四十三名で南松尾校区で消防団活動を行っています。火災発生時には、いち早く火災現場に駆け付け消火活動を行っています。

また、消防団ＯＢの方も気に止めて頂き消火活動のアドバイスやサポートをして頂く事もあります。

その為、第三分団は、横の繋がりはもとより縦の繋がりもあり、言わば団結力が非常に強く各団員が、その団結力で繋がっています。定期的な訓練・機器点検を行い、いつ・どこで・何が起こるかわからない災害に対し、団員一丸となり万全の準備を行っています。

Cブロックの第四分団

執筆者 分団長　辻　守

第四分団は、地域住民や各町会・各種団体とコミュニケーションを取りながら連携し地域の防災意識の向上に努めています。

年頭にあたっては、各種団体役員と一年間の協力と要望を話し合い、相互の理解を深めています。国道４８０号線のリフレッシュ活動に参加し危険個所の把握と美化活動に努めています。納涼大会に参加し駐車場の警備・花火大会の警備巡回を行っています。地域防災訓練時に地域住民の方々と打ち合わせを行い住民の防災意識向上に努めています。消防出初式は、全団員で参加し「わが町の消防団」をアピールするとともに各団員の士気向上に繋がっています。毎月の定例訓練、及び年二回の二町合同訓練も実施しています。風水害の危険があるときは随時地域の巡回も行っています。

Dブロックの第七分団

執筆者 分団長　藤原　良裕

第七分団は、団員二十六名で消防資器材の管理・多種多様な教育・訓練を受け災害時における消火活動はもとより台風・豪雨・地震などの自然災害における救助活動や被害を防ぐ活動さらには事故災害における救助・救出活動などあらゆる災害に対し、消防車両三台で各校区を安心して生活できる地域づくりに 全力を注いでいます。

ひとりごと

消防車が「ウーカンカン」とサイレンを鳴らしかっこよく走って行く。しかし、私が緊急走行のポンプ車に乗ったのは、僅か数回だけである。なぜなら、私の所属する分団のポンプ車は町の中心の器具庫に停めている。私の様に器具庫から遠い団員は、現場外套にヘルメット、装備品は自宅に持ち帰り自分の車やバイクで現場に向かう。気持ちが焦っていても、交通ルールを守り安全走行するので到着が遅れる。先着している団員がホースを延長し消火活動を始めている。私は先着している団員に感謝をしながら消火活動に参加する。

執筆者　第一分団部長　藤田 正彦（寺門町在住）

各ブロックの8分団・2分団・5分団・6分団は、次号消防団だよりで紹介させて頂きます。